

平成28年10月26日
教育委員会

(案)
子どもたちの学力・体力向上
について

—平成28年度全国学力・学習状況調査の結果等—

北九州市教育委員会

1. 平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告

【調査結果と分析】

| | |
|---|----|
| (1) 教科に関する調査結果の概要 | 5 |
| (2) 成果と課題（本年度の正答率に見られる顕著な状況） | 6 |
| (3) 調査結果の経年比較 | 7 |
| (4) 本年度の正答率に見られる顕著な状況 | 8 |
| (5) 各教科の分析結果 | 10 |
| (6) 学力に影響を与える要因 | 21 |
| (7) 学習状況調査結果 ～「学びの育ち」と「心の育ち」の更なる成長に向けて～ | 22 |
| ① 学びの育ち | 24 |
| ② 心の育ち | 35 |
| (8) 成果を上げた各学校の取組事例 | 42 |

【学力向上アクションプランの成果と今後の方向性】

| | |
|----------------------------|----|
| (1) 学力向上アクションプラン（概要） | 46 |
| (2) 授業力向上 | 47 |
| (3) 家庭・地域との連携 | 48 |
| (4) 子どもひまわり学習塾 | 49 |
| (5) 学力向上アクションプランの成果と今後の方向性 | 50 |

2. 平成28年度 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果

| | |
|--------------------------------|----|
| (1) 全体概要（速報値） | 52 |
| (2) 本年度の体力向上の取組について | 54 |
| (3) 北九州市体力向上プログラム（準備運動編）の活用の仕方 | 56 |

3. 次期学習指導要領改定のポイント

----- 67

1. 平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告

【調査結果と分析】



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん, 北九州市

(1) 教科に関する調査結果の概要

結果の概要

小学校

- 「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として平成25年度以降の経年比較をすると、国語、算数共に一進一退である。昨年度と比較すると、国語Aと算数Aは同程度、国語Bは上昇、算数Bは下降した。

中学校

- 「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として平成25年度以降の経年比較をすると、国語、数学共に一進一退である。昨年度と比較すると、国語Aと国語Bは同程度、数学Bは上昇、数学Aは下降した。

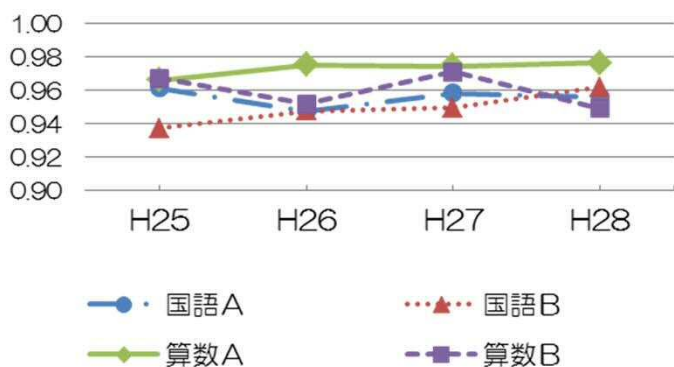
本年度結果

※平成28年度より正答率は整数値での公表

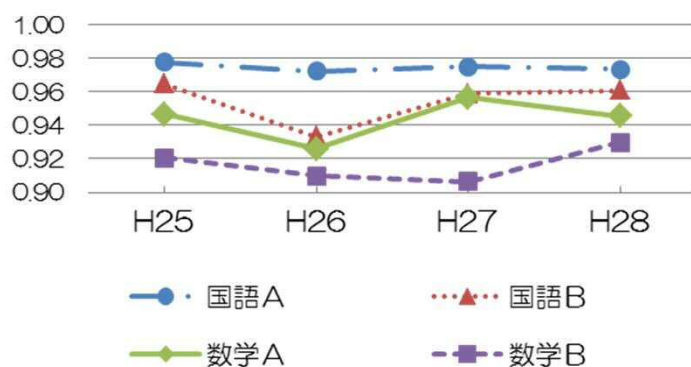
| 小学校 | 北九州市 正答率 | 全国 正答率 | 北九州市 正答数 | 全国 正答数 | 中学校 | 北九州市 正答率 | 全国 正答率 | 北九州市 正答数 | 全国 正答数 |
|-----|-------------|-----------|--------------|--------------|-----|-------------|-----------|--------------|--------------|
| 国語A | 70 | 73 | 10.4 /15問 | 10.9 /15問 | 国語A | 74 | 76 | 24.3 /33問 | 25.0 /33問 |
| 国語B | 56 | 58 | 5.6 /10問 | 5.8 /10問 | 国語B | 64 | 67 | 5.8 /9問 | 6.0 /9問 |
| 算数A | 76 | 78 | 12.1 /16問 | 12.4 /16問 | 数学A | 59 | 62 | 21.2 /36問 | 22.4 /36問 |
| 算数B | 45 | 47 | 5.8 /13問 | 6.1 /13問 | 数学B | 41 | 44 | 6.1 /15問 | 6.6 /15問 |

各教科・区分の経年変化

全国平均正答率に対する割合の推移
【小学校】



全国平均正答率に対する割合の推移
【中学校】



(2) 成果と課題 (本年度の正答率に見られる顕著な状況)



【成果1】

- 国語A・B, 算数(数学)A・Bを合わせた平均正答率は, 小学校は3年連続同程度であるが, 中学校は改善の兆しが見られる。

| | | | | | | |
|-----|--------|------|--------|------|--------|-----|
| 小学校 | 平成26年度 | 96%→ | 平成27年度 | 96%→ | 平成28年度 | 96% |
| 中学校 | 平成26年度 | 94%→ | 平成27年度 | 95%→ | 平成28年度 | 96% |

※ 全国平均正答率を100%として比較

【成果2】

- 同じく4つを合わせた平均正答率は, 中学校では全国平均正答率を上回る学校が増加傾向にある。

| | | | | | | |
|-----|--------|------|--------|------|--------|-----|
| 中学校 | 平成26年度 | 12校→ | 平成27年度 | 13校→ | 平成28年度 | 14校 |
|-----|--------|------|--------|------|--------|-----|

【成果3】

- 小学校国語Bは, 昨年度と比較すると改善している。

| |
|----------------------------|
| 全国平均正答率に対する割合の増加 |
| 平成27年度 95%→ 平成28年度 96% |
| 全国平均正答率より, 10ポイント以上低い学校の減少 |
| 平成27年度 26校→ 平成28年度 15校 |
| 全国平均正答率を上回る学校の増加 |
| 平成27年度 39校→ 平成28年度 44校 |

〈課題1〉

- 各教科・区分を合わせた平均正答率について, 小学校では昨年度と比べ, 全国平均正答率を上回る学校が減少した。

| | | | | | | |
|-----|--------|------|--------|------|--------|-----|
| 小学校 | 平成26年度 | 39校→ | 平成27年度 | 44校→ | 平成28年度 | 38校 |
|-----|--------|------|--------|------|--------|-----|

〈課題2〉

- 中学校は昨年度と比べて, 全国平均正答率より, 10ポイント以上低い学校が増加した。

| | | | | | | |
|-----|--------|------|--------|-----|--------|-----|
| 国語A | 平成26年度 | 6校→ | 平成27年度 | 1校→ | 平成28年度 | 3校 |
| 国語B | 平成26年度 | 11校→ | 平成27年度 | 2校→ | 平成28年度 | 10校 |
| 数学A | 平成26年度 | 19校→ | 平成27年度 | 8校→ | 平成28年度 | 12校 |
| 数学B | 平成26年度 | 17校→ | 平成27年度 | 8校→ | 平成28年度 | 11校 |

〈課題3〉

- 中学校数学は, 全国平均正答率を100%として比較すると, 他の教科・区分に比べて, 低い状態が続いている。

| | | | | | | |
|-----|--------|------|--------|------|--------|-----|
| 数学A | 平成26年度 | 93%→ | 平成27年度 | 96%→ | 平成28年度 | 95% |
| 数学B | 平成26年度 | 91%→ | 平成27年度 | 91%→ | 平成28年度 | 93% |

(3) 調査結果の経年比較

○全国平均正答率に対する割合（平成19年度～平成28年度）

| | 小学校 | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | | 中学校 | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|------|-----|-----|
| 19年度 | 本市 | 81 | 59 | 81 | 61 | 19年度 | 本市 | 81 | 69 | 69 | 57 |
| | 全国 | 82 | 62 | 82 | 64 | | 全国 | 82 | 72 | 72 | 61 |
| | 対全国比 | 99% | 95% | 98% | 95% | | 対全国比 | 99% | 96% | 96% | 94% |
| 20年度 | 本市 | 62 | 45 | 70 | 47 | 20年度 | 本市 | 73 | 58 | 60 | 47 |
| | 全国 | 65 | 51 | 72 | 52 | | 全国 | 74 | 61 | 63 | 49 |
| | 対全国比 | 95% | 90% | 97% | 92% | | 対全国比 | 99% | 95% | 94% | 95% |
| 21年度 | 本市 | 68 | 46 | 77 | 52 | 21年度 | 本市 | 76 | 73 | 60 | 54 |
| | 全国 | 70 | 51 | 79 | 55 | | 全国 | 77 | 75 | 63 | 57 |
| | 対全国比 | 97% | 92% | 98% | 94% | | 対全国比 | 98% | 97% | 95% | 95% |
| 22年度 | 本市 | 82 | 74 | 71 | 47 | 22年度 | 本市 | 75 | 66 | 61 | 41 |
| | 全国 | 83 | 78 | 74 | 49 | | 全国 | 75 | 65 | 65 | 43 |
| | 対全国比 | 98% | 95% | 96% | 96% | | 対全国比 | 99% | 102% | 94% | 94% |
| 24年度 | 本市 | 79 | 52 | 70 | 56 | 24年度 | 本市 | 74 | 61 | 59 | 44 |
| | 全国 | 82 | 56 | 73 | 59 | | 全国 | 75 | 63 | 62 | 49 |
| | 対全国比 | 97% | 94% | 96% | 95% | | 対全国比 | 98% | 97% | 94% | 89% |
| 25年度 | 本市 | 60 | 46 | 75 | 57 | 25年度 | 本市 | 75 | 65 | 60 | 38 |
| | 全国 | 63 | 49 | 77 | 58 | | 全国 | 76 | 67 | 64 | 42 |
| | 対全国比 | 96% | 94% | 97% | 97% | | 対全国比 | 98% | 96% | 95% | 92% |
| 26年度 | 本市 | 69 | 53 | 76 | 55 | 26年度 | 本市 | 77 | 48 | 62 | 54 |
| | 全国 | 73 | 56 | 78 | 58 | | 全国 | 79 | 51 | 67 | 60 |
| | 対全国比 | 95% | 95% | 98% | 95% | | 対全国比 | 97% | 93% | 93% | 91% |
| 27年度 | 本市 | 67 | 62 | 73 | 44 | 27年度 | 本市 | 74 | 63 | 62 | 38 |
| | 全国 | 70 | 65 | 75 | 45 | | 全国 | 76 | 66 | 64 | 42 |
| | 対全国比 | 96% | 95% | 98% | 97% | | 対全国比 | 98% | 96% | 96% | 91% |
| 28年度 | 本市 | 70 | 56 | 76 | 45 | 28年度 | 本市 | 74 | 64 | 59 | 41 |
| | 全国 | 73 | 58 | 78 | 47 | | 全国 | 76 | 67 | 62 | 44 |
| | 対全国比 | 96% | 96% | 98% | 95% | | 対全国比 | 97% | 96% | 95% | 93% |

※正答率と対全国比は実際の数値で計算をしていますが、整数値で表記しています。

(4) 本年度の正答率に見られる顕著な状況

小学校



| 教科区分 | 全国と比べて平均正答率が比較的高い問題 | 本市平均正答率 | 全国平均正答率 | 差 | 全国と比べて平均正答率が比較的低い問題 | 本市平均正答率 | 全国平均正答率 | 差 |
|------|---------------------|---------|---------|------|---------------------|---------|---------|------|
| 国語A | 漢字を書く(そうだん) | 69.0 | 64.2 | +4.8 | 漢字を読む(快晴) | 70.0 | 79.3 | -9.3 |
| | 漢字を読む(省く) | 82.4 | 81.0 | +1.4 | ローマ字を書く(あさって) | 32.1 | 41.8 | -9.7 |
| 国語B | グラフを基に分かったことを的確に書く | 43.7 | 43.4 | +0.3 | 表を基に、自分の考えを書く | 60.1 | 64.2 | -4.1 |
| | グラフを基に自分の考えを書く | 50.8 | 51.4 | -0.6 | 話の展開に沿って質問する | 45.0 | 50.4 | -5.4 |
| 算数A | 2.1÷0.7の計算の数値の組み合わせ | 73.5 | 68.5 | +5.0 | 三角形の底辺に対応する高さを選ぶ | 74.2 | 82.0 | -7.8 |
| | 18÷0.9の計算 | 80.3 | 77.7 | +2.6 | 基準量と比較量の関係の理解 | 42.8 | 50.9 | -8.1 |
| 算数B | 示された条件を別の場面で用いて説明する | 47.3 | 45.2 | +2.1 | 表から読み取れない事柄を選ぶ | 65.3 | 70.7 | -5.4 |
| | 式の中の数値の意味を書く | 15.9 | 15.6 | +0.3 | 単位量あたりの大きさを求める | 42.3 | 48.3 | -6.0 |

小学校

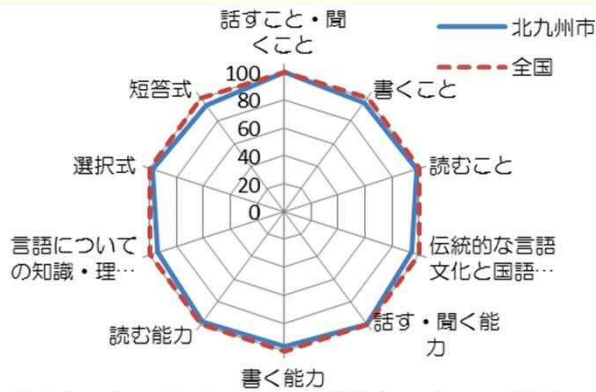


| 教科区分 | 全国と比べて平均正答率が比較的高い問題 | 本市平均正答率 | 全国平均正答率 | 差 | 全国と比べて平均正答率が比較的低い問題 | 本市平均正答率 | 全国平均正答率 | 差 |
|------|-------------------------------|---------|---------|---------|-----------------------------|---------|---------|-------|
| 国語A | 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む | 84.5 | 80.2 | +4.3 | 文字の形や大きさ、配列に注意して書く | 27.0 | 36.4 | -9.4 |
| | 文脈に即して漢字を正しく読む（敬う） | 84.4 | 82.6 | +1.8 | 文脈に即して漢字を正しく書く（ドクソウ的） | 17.3 | 26.1 | -8.8 |
| 国語B | 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える | 74.8 | 76.2 | -1.4 | 必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く | 53.0 | 57.7 | -4.7 |
| | 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える | 47.4 | 49.2 | -1.8 | 目的に応じて文章を要約する | 60.5 | 64.0 | -3.5 |
| 数学A | 三角柱において、ねじれの位置にある辺をかく | 76.4 | 75.5 | +0.9 | x の変域から y の変域を求める | 33.8 | 43.0 | -9.2 |
| | 不等式の意味を読み取る | 78.9 | 78.2 | +0.7 | 平行線の性質で角の大きさの計算 | 66.5 | 74.8 | -8.3 |
| 数学B | グラフの傾きの解釈 | 30.7 | 29.8 | +0.9 | x の値を代入して y の値の計算 | 48.8 | 59.1 | -10.3 |
| | 事柄が成り立つ理由を数学的に説明 | 51.4 | 51.4 | ± 0 | 筋道を立てて考えて証明する | 23.2 | 29.4 | -6.2 |

(5) 各教科の分析結果

小学校国語A (知識に関する問題)

領域・観点・問題形式別

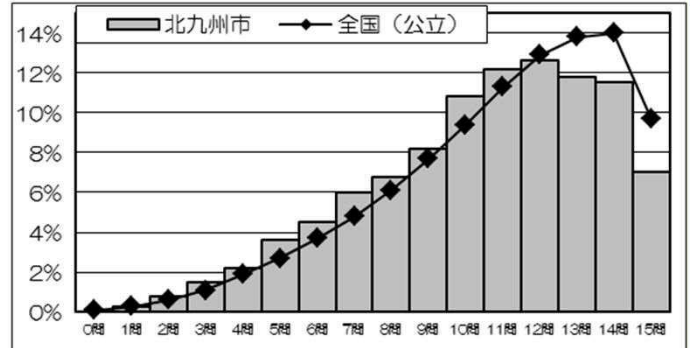


- ◇「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域の正答率は、全国平均をともに1ポイント程度下回っているものの、全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域、「言語についての知識・理解・技能」の観点の平均正答率は、全国平均を2.5ポイント下回った。
- ◆「短答式」の平均正答率は、全国平均を1.2ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

平成28年度 小学校国語A 正答分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合)



- ◆全国は14問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は12問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下 (0~6問正解) の生徒の割合は、12.9%である。
- ◆正答率80%以上 (12~15問正解) の生徒の割合は、42.9%である。

る。3

先生にそうだんす

正答

相談

【漢字を正しく書く問題】

文や文章の中で漢字を適切に使うことができるようにするために、様々な場面で既習漢字の使用を徹底しましょう。また、語彙を広げるために、国語辞典・漢字辞典の利用についても指導しましょう。

| | | | |
|-------------|-------|----------|------|
| H28 北九州市正答率 | 69.0% | 北九州市無解答率 | 3.6% |
| H19 北九州市正答率 | 56.2% | 北九州市無解答率 | 9.2% |
| 全国正答率 | 64.2% | 全国無解答率 | 5.0% |

小学校国語Aで成果があった問題



小学校国語Aで課題があった問題

【ローマ字を読んだり書いたりする問題】

2 [あさって] ⇨

.....
.....
.....

正答 asatte

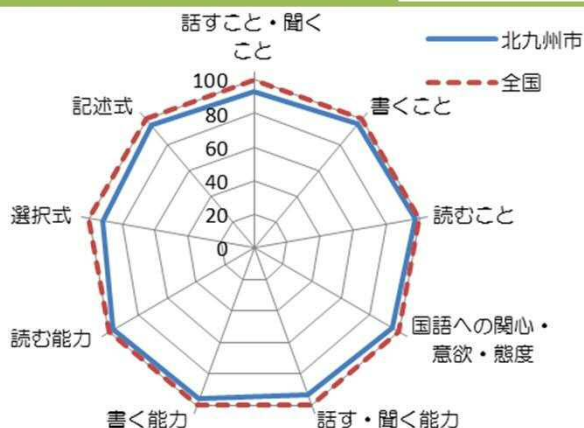
授業では、ローマ字の規則性を押さえるとともに、長音、拗音、促音、撥音などについて、音声と関係付けながら指導しましょう。

また、他教科等の学習と関連付けるなどして繰り返し読んだり書いたりする機会を増やしましょう。

| | | | |
|---------|-------|----------|-------|
| 北九州市正答率 | 32.1% | 北九州市無解答率 | 17.2% |
| 全国正答率 | 41.8% | 全国無解答率 | 13.7% |

小学校国語B（活用に関する問題）

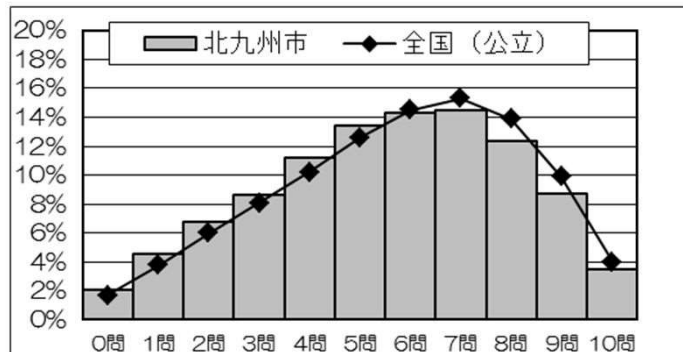
領域・観点・問題形式別



- ◇「読むこと」の領域、「読む能力」の観点の正答率は、全国平均をともに1.6ポイント下回っているものの、全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「話すこと・聞くこと」の領域、「話す・聞く能力」の観点の平均正答率は、全国平均を3.6ポイント下回った。
- ◆「選択式」の平均正答率は、全国平均を2.0ポイント下回った。

正答数分布図

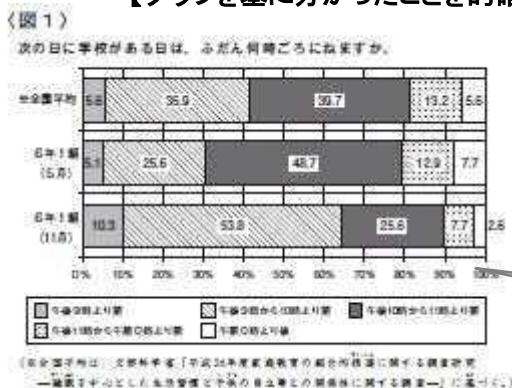
学力の分布は、正答数の多い側によった山型である。
平成28年度 小学校国語B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ◆全国と北九州市は、ともに7問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～4問正解）の生徒の割合は、33.3%である。
- ◆正答率80%以上（8～10問正解）の生徒の割合は、24.6%である。

【グラフを基に分かったことを的確に書く問題】

- 1 五月の結果を下回り、三十パーセント程度になりました。
- 2 五月の結果より減り、四十パーセント以下になりました。
- 3 五月の結果より増え、六十パーセントをこえました。
- 4 五月の結果を上回り、十パーセント程度になりました。



正答 4

授業では、目的や課題に応じて、文章だけでなく、図表やグラフの資料を意図的・計画的に活用しましょう。
その際、目的に応じて資料から情報を正しく取り出し、字数などの条件に合わせた的確に書く指導をしましょう。

〈図1〉から分かったことを的確に書く

北九州市正答率 43.7% 北九州市無解答率 0.8%
全国正答率 43.4% 全国無解答率 1.2%

小学校国語Bで成果があった問題



小学校国語Bで課題があった問題

【話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する問題】

正答例
○お客さんにも大好評ということですが、地産地消について、どのように考えていらっしゃいますか。

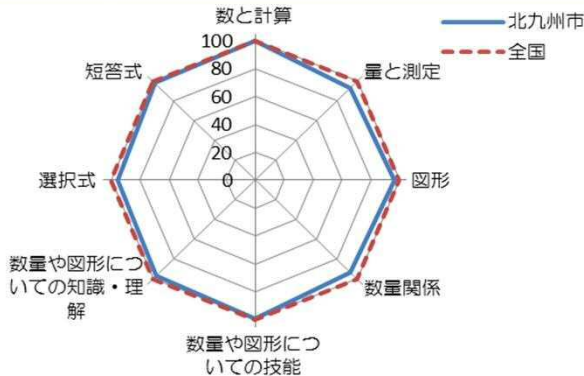
山下さんは【インタビューの一部】の【 】の中で、質問をしています。どのような質問をしたと考えられますか。次の条件に合わせて書きましょう。
<条件>
○「事前に準備したインタビューメモ」の内容を使って質問すること。
○【インタビューの一部】の【 】の山下さんの質問のように、「店長」の発言を受けて質問をすること。
○三十字以上、五十字以内で書くこと。

「話すこと・聞くこと」の授業では、目的や場面に応じて、「話し手の意図」や「自分の考えとの共通点や相違点」、「予想した反応との違い」などを踏まえながら聞くことができるように、実際の話の展開の中で、それらの観点を取り上げて指導しましょう。

北九州市正答率 45.0% 北九州市無解答率 8.0%
全国正答率 50.4% 全国無解答率 7.8%

小学校算数A（知識に関する問題）

領域・観点・問題形式別

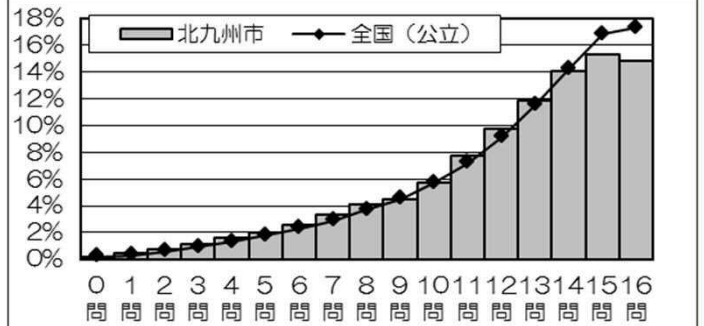


- ◇ 「数と計算」の領域, 「数量や図形についての技能」, 「短答式」の平均正答率は, 全国平均をそれぞれ0.1ポイント, 0.4ポイント, 1.1ポイント下回っているものの, 全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆ 「量と測定」の領域, 「数量や図形についての知識・理解」の観点, 「選択式」の平均正答率は, 全国平均をそれぞれ5.0ポイント, 2.5ポイント, 3.5ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は, 正答数の多い側に集中した山型である。

平成28年度 小学校算数A 正答分布グラフ (横軸: 正答数 縦軸: 割合)



- ◆ 全国は16問正解の生徒の割合が最も多いが, 北九州市は15問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆ 正答率40%以下 (0~6問正解) の生徒の割合は, 8.8%である。
- ◆ 正答率80%以上 (13~16問正解) の生徒の割合は, 56.1%である。

【除法の性質に基づいて, 小数の計算を整数の計算に置き換える問題】

1

- (2) $2.1 \div 0.7$ を, 「わられる数とわる数に同じ数をかけても商は変わらない」というわり算の性質を使って, 次のように計算します。

$$\begin{array}{ccc} 2.1 \div 0.7 = & \text{ア} & \\ \downarrow 10 \text{ をかける} & & \downarrow 10 \text{ をかける} \\ \text{ア} \div 7 = & \text{イ} & \end{array}$$

ア: 21
イ: 3
正答 ウ: 3

整数の除法の計算において, 除数及び被除数に同じ数をかけても, 同じ数でわっても商は変わらないという除法の性質が成り立つことを根拠に, 小数の除法を整数の除法に置き換えて計算することができることを説明する場面を設定しましょう。

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 73.5% | 北九州市無解答率 | 0.2% |
| 全国正答率 | 68.5% | 全国無解答率 | 0.4% |

小学校算数Aで成果があった問題



小学校算数Aで課題があった問題

【基準量と比較量を適切に捉え図に表す問題】

9

- (2) バスに乗っている人数は60人です。乗っている人数は, 定員よりも定員の20%分多いそうです。
定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を, 百分率を使った次の図に表します。

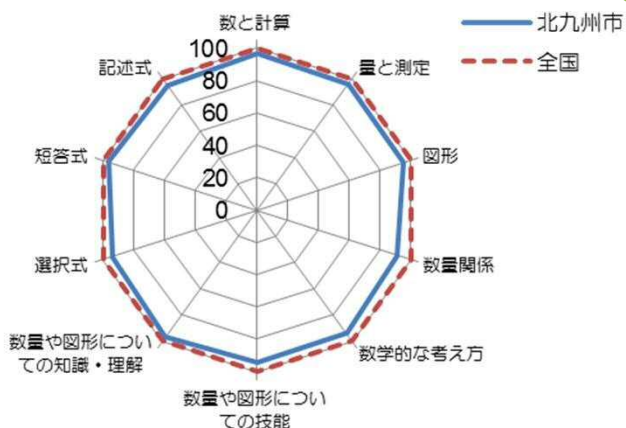


ア: 100
正答 イ: 120

授業では日常生活において, 増量や割引など様々な場面で割合が用いられていることを想起させながら, 基準量と比較量, 割合の関係を正しく説明する場面を設定しましょう。特に, 何が基準量に当たるのかを意識させることが大切です。

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 42.8% | 北九州市無解答率 | 4.9% |
| 全国正答率 | 50.9% | 全国無解答率 | 5.7% |

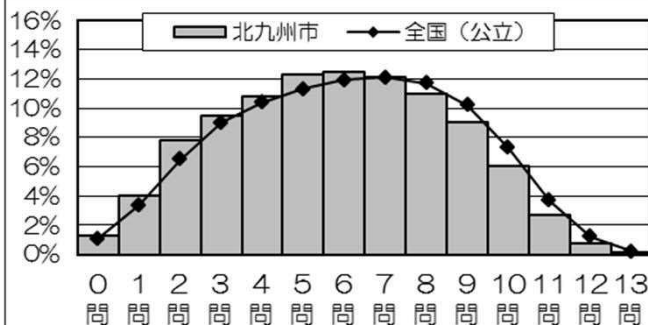
領域・観点・問題形式別



- ◇「数と計算」「量と測定」「図形」の領域、「記述式」の平均正答率は、それぞれ1.6、1.6、1.9、1.4ポイント下回っているものの全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「数量関係」の領域、「数量や図形についての技能」の観点、「選択式」の平均正答率は、それぞれ3.9ポイント、2.9ポイント、3.4ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側によった山型である。
平成28年度 小学校算数B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



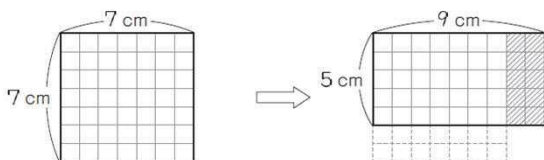
- ◆全国は7問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は6問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～5問正解）の生徒の割合は、45.7%である。
- ◆正答率80%以上（11～13問正解）の生徒の割合は、3.6%である。

1 【示された条件を別の場面に適用して説明する問題】

(2) 次に、正方形の縦の長さを2 cm 短くし、横の長さを2 cm 長くすると、面積はどうかを、1辺が7 cm の正方形を使って考えます。



よし子さんと同じ考え方を使えば、面積が4 cm²小さくなる
ことがわかります。



【よしさんの説明】をもとに、面積が4 cm²小さくなることを説明すると、どのようになりますか。

具体的な場面できまりを見つけ、そのきまりが成り立つかどうかを説明する際、過不足なく説明できているかどうかを確かめ合いながら、説明の内容を言葉、図、式、さらには操作などと適切に関連付けていく場面を設定しましょう。

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 47.3% | 北九州市無解答率 | 4.0% |
| 全国正答率 | 45.2% | 全国無解答率 | 4.0% |

小学校算数Bで成果があった問題



小学校算数Bで課題があった問題

【必要な情報を判断し単位量当たりの大きさを求める問題】



私は、どちらの学校の子どものほうが本をよく借りているかを、各学校の1人あたりの貸出冊数で比べたいです。
1人あたりの貸出冊数を求めるためには、各学校の貸出冊数の合計のほかに、何を調べたらよいか。

- 4 (1) あさ子さんのように各学校の1人あたりの貸出冊数を求めるためには、表1の□の各学校の貸出冊数の合計のほかに、どのような数が必要ですか。
- 下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

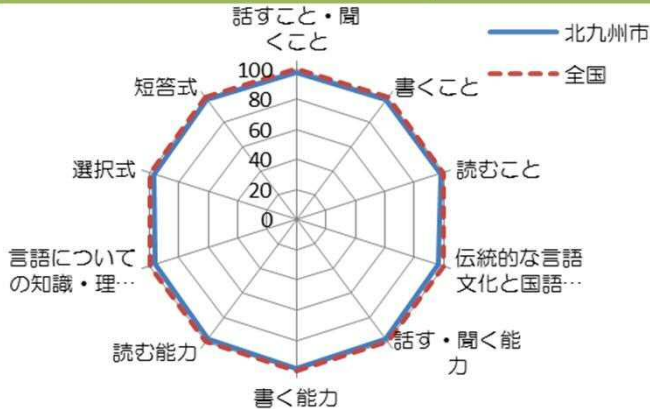
- 1 各学校の、図書館を利用した人数
- 2 各学校の、学校全体の児童の人数
- 3 各学校の、図書館にある本の冊数
- 4 各学校の、本の種類ごとの貸出冊数

正答 2

授業では解決したい問題を明確にして、資料を集め、集めた資料を分類整理し表に表したり、表を読み取ったりする活動を取り入れながら、表から新たな問題を見出し、解決するために必要な情報を収集する場面を設定しましょう。

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 42.3% | 北九州市無解答率 | 1.8% |
| 全国正答率 | 48.3% | 全国無解答率 | 1.9% |

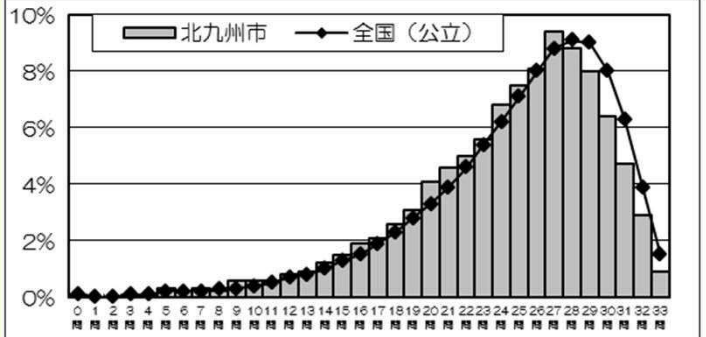
領域・観点・問題形式別



- ◇ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の観点、「短答式」の平均正答率は1.1～1.9ポイント下回っているものの、全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域、「言語についての知識・理解・技能」の観点の平均正答率は、全国平均を2.5ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成28年度 中学校国語A 正答分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合)



- ◆ 全国は28問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は27問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆ 正答率40%以下 (0～13問正解) の生徒の割合は、4.8%である。
- ◆ 正答率80%以上 (27～33問正解) の生徒の割合は、41.1%である。

4 — 【文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くことができるかどうかをみる問題】

書き直す前の一文には...

- 標高による気温の高低に関する一般的な傾向
- 北極点と南極点に関する具体的な事実

二つの異なる内容が混在している。

二文に分けて書くことで、
二つの内容が整理され、分かりやすくなる。

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 65.7% | 北九州市無解答率 | 0.6% |
| 全国正答率 | 64.7% | 全国無解答率 | 0.6% |

【山田さんの答え】より一部抜粋

(ア) になります。

また、標高が高いほうが気温が低くなり、実際に、南極点は大陸にありますが、北極点には海や氷が広がっています。

問) 山田さんは、自分の答えを読み返して (ア) のように直しました。その意図として適切なものを選びなさい。

(答) 異なる二つの内容を整理して
分かりやすくするため

中学校国語Aで成果があった問題



中学校国語Aで課題があった問題

9 六 【文字の形や大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる問題】

書写の学習では、

- ◇ 字形や文字の大きさ、配列などの観点を具体的に示した上で、実際に書き直したのを見比べる指導 (書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設ける等)
- ◇ ノートや掲示物などを書く際に、書写で学んだことを活用するように指導 (視写教材の活用、ノート・作文における添削等) が重要

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 27.0% | 北九州市無解答率 | 1.4% |
| 全国正答率 | 36.4% | 全国無解答率 | 1.2% |

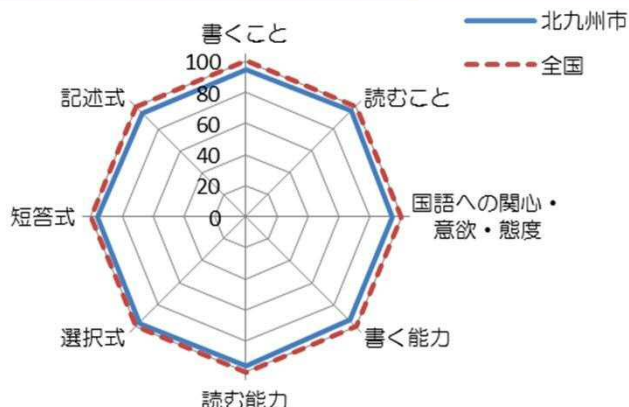
- 1 全ての文字を同じ大きさにして書き直した。
- 2 別の文字と区別できないように字形を変えて書き直した。
- 3 書体を統一することを考えて全ての文字を楷書で書き直した。
- 4 行の中心に文字の中心を合わせようとして書き直した。
- 5 用紙の大きさと文字数の関係に合わせて書き直した。

みんなで目指す理想の学校

みんなで目指す理想の学校

六 市立大分南高等学校国語科 国語A 第10回 国語の授業実践「書写の学習」 藤田 真由美

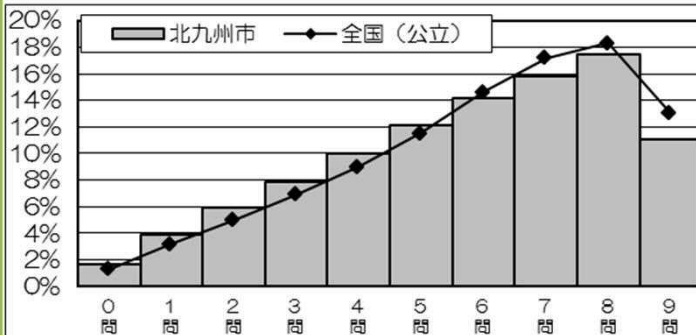
領域・観点・問題形式別



- ◆ 「書くこと」の領域の正答率は、全国平均を3.3ポイント下回った。
- ◆ 「国語への関心・意欲・態度」、「書く能力」の観点の平均正答率は、全国平均を3.3ポイント下回った。
- ◆ 「記述式」の平均正答率は、全国平均を3.3ポイント下回った。

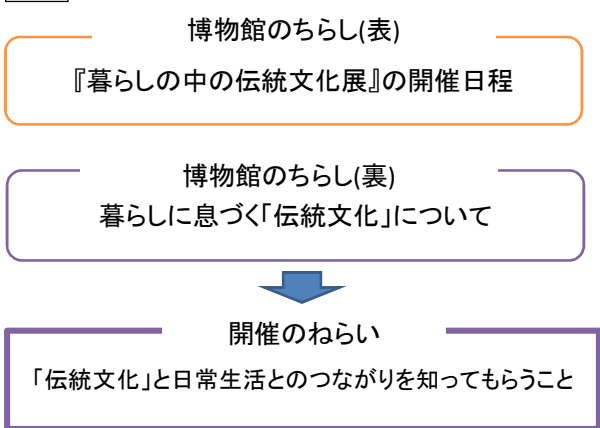
正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成28年度 中学校国語B 正答分布グラフ (横軸: 正答数 縦軸: 割合)



- ◆ 全国と北九州市は、ともに8問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆ 正答率40%以下 (0~3問正解) の生徒の割合は、19.4%である。
- ◆ 正答率80%以上 (8~9問正解) の生徒の割合は、28.6%である。

1 一 【文章の中心的部分と付加的部分とを読み分け、要旨を捉えることができるかどうかをみる問題】



問) 【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして最も適切なものを選びなさい。

* 選択肢は省略

(答) 日本の伝統文化は特別なものではなく、現在の生活とつながりがあると知ってもらうこと。

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 74.8% | 北九州市無解答率 | 0.2% |
| 全国正答率 | 76.2% | 全国無解答率 | 0.2% |

中学校国語Bで成果があった問題



中学校国語Bで課題があった問題

2 三 【課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかをみる問題】

ア: 【雑誌の記事】の内容から新たな課題を見いだす

イ: 課題解決のために学校図書館を利用して必要な本をどのように探すのかを考える

- ◇ 交流を通して疑問点を出し合い、新たな課題を設定する活動(話し合い活動の充実等)
- ◇ 課題解決に向け、目的に応じて適切な情報を収集する活動(インターネット、図書館の利用等)

問) 高橋さんは、宇宙エレベーターについて疑問に思ったことを、学校図書館で調べることにしました。あなたなら、自分が疑問に思ったことを、学校図書館でどのように調べますか。

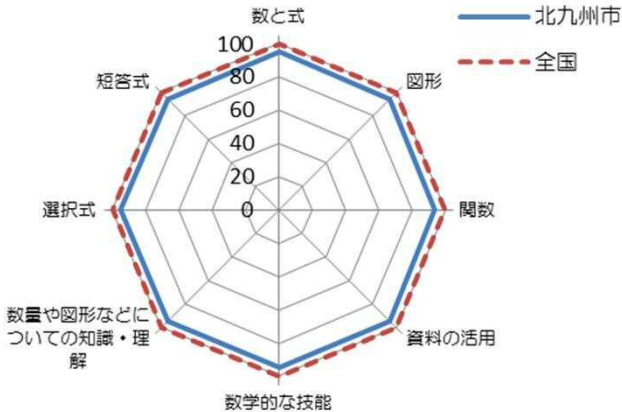
ア. 【雑誌の記事】を読んで、宇宙エレベーターについてあなたが疑問に思ったことを「なぜ」「どのような(に)」「どのくらい」という言葉のいずれかを使って20字以上、40字以内で書きなさい。

イ. アについて学校図書館で調べる場合、必要な本をどのように探しますか。本の探し方を2つ書きなさい。

* 正答例は省略

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 47.4% | 北九州市無解答率 | 8.2% |
| 全国正答率 | 49.2% | 全国無解答率 | 6.0% |

領域・観点・問題形式別

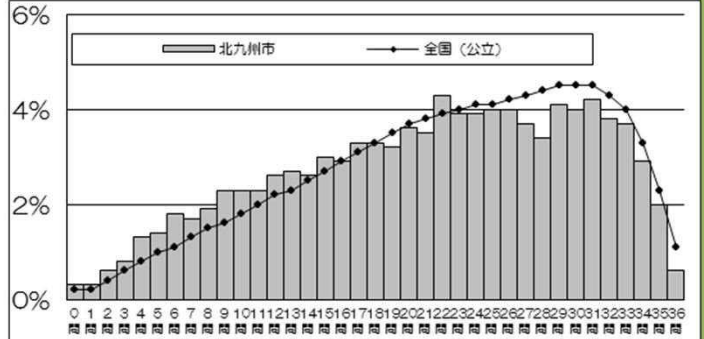


- ◆ 「図形」の領域の正答率は、全国平均を3.7ポイント下回った。
- ◆ 「数学的な技能」の観点の平均正答率は、全国平均を3.6ポイント下回った。
- ◆ 「短答式」の平均正答率は、全国平均を3.7ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は低位層が多く、二つの山で分布している。

平成28年度 中学校数学A 正答分布グラフ (横軸: 正答数 縦軸: 割合)

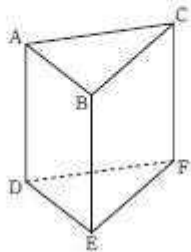


- ◆ 全国は31問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は22問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆ 正答率40%以下 (0~14問正解) の生徒の割合は、24.9%である。
- ◆ 正答率80%以上 (29~36問正解) の生徒の割合は、25.3%である。

【三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く問題】

⑤ 次の(1)から(4)までの各問に答えなさい。

(1) 下の図の三角柱には、辺ADとねじれの位置にある辺がいくつかあります。そのうちの1つを書きなさい。



【授業において】

見取図から直線や平面の位置関係を読み取ることができるようになるために、立体の模型などの具体物を用いて観察や操作の活動の場面を積極的に取り入れましょう。

正答 辺BC または 辺EF

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 76.4% | 北九州市無解答率 | 3.3% |
| 全国正答率 | 75.5% | 全国無解答率 | 2.6% |

中学校数学Aで成果があった問題

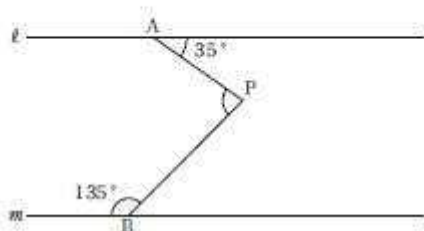


中学校数学Aで課題があった問題

【平行線や角の性質を用いて角の大きさの計算の問題】

⑥ 次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 下の図で、直線 l 、 m は平行です。このとき、 $\angle APB$ の大きさを求めなさい。



【授業において】

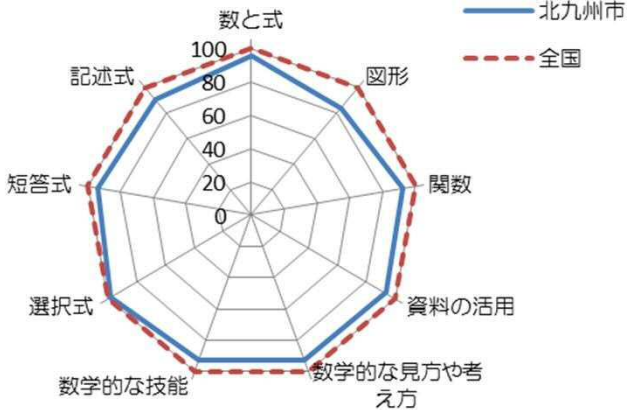
平行線の性質や三角形の内角の和、三角形の外角の性質など様々な解法を用いて角の大きさの求め方を話し合い、説明する場面を設定しましょう。

正答 $\angle APB=80^\circ$

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 66.5% | 北九州市無解答率 | 6.2% |
| 全国正答率 | 74.8% | 全国無解答率 | 4.5% |

中学校数学B（活用に関する問題）

領域・観点・問題形式別

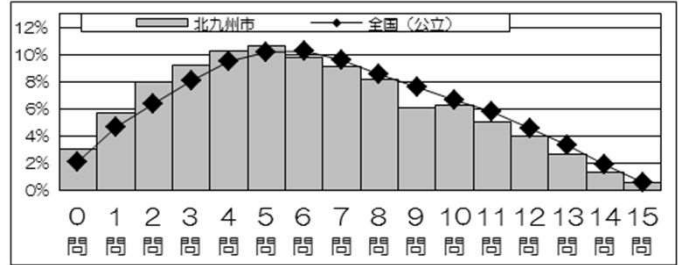


- ◇「選択式」の平均正答率は、全国平均を0.8ポイント下回っているものの、全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「図形」の領域、「数学的な技能」の観点、「短答式」の平均正答率は、それぞれ全国平均を5.5, 4.3, 3.7ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側に集中した山型である。

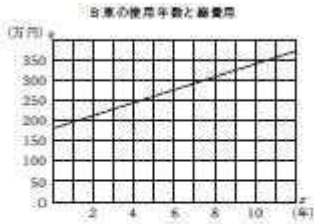
平成28年度 中学校数学B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ◆全国は6問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は5問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～6問正解）の生徒の割合は、56.7%である。
- ◆正答率80%以上（12～15問正解）の生徒の割合は、8.6%である。

③ (2) 3車を購入してy年間使用するときの総費用をy万円とします。このxとyの関係を、転平さんは次のような一次関数のグラフに表しました。

【B車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ問題】



このグラフの傾きは、B車についての何を表していますか。下のAからEまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- A 総費用
- I 車両価格
- ウ 1年間あたりのガソリン代
- E 使用年数

【授業において】

グラフの傾きは変化の割合を示していることから、話し合い活動を通じて「使用年数が増えるにつれて、諸経費が増える」ことに生徒が気づき、「1年間あたりのガソリン代」であると言葉で説明する場面を設定するとよいでしょう。

正答 ウ

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 北九州市正答率 | 30.7% | 北九州市無解答率 | 0.8% |
| 全国正答率 | 29.8% | 全国無解答率 | 0.7% |

中学校数学Bで成果があった問題



中学校数学Bで課題があった問題

② 桃香さんと拓真さんは、お互いに数学の問題を出し合いながら勉強しています。桃香さんは、次のような問題を作りました。



次の(1)、(2)の名前に答えなさい。

(1) 拓真さんは、桃香さんが作った問題について、yはxの一次関数であると考えました。yがxの一次関数であるとするとき、x=4のときのyの値を求めなさい。

【一次関数の表からx=4のときのyの値を求める問題】

【授業において】

1年生の「変化と対応」や2年生の「一次関数」において、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することが大切になります。

授業では、表からxの増加量が1のときのyの増加量が-6になっていることを根拠にして、x=4のときy=12-6=6と説明させる場面を設定するとよいでしょう。

正答 y=6

| | | | |
|---------|-------|----------|-------|
| 北九州市正答率 | 48.8% | 北九州市無解答率 | 12.6% |
| 全国正答率 | 59.1% | 全国無解答率 | 8.7% |

小学校国語

【国語A】〈全国平均正答率との差〉

- 漢字を正しく書くこと「そうだん」 〈全国平均正答率との差… +4.8〉
- 目的に応じて必要な情報を取り出し、それらを関係付けて読むこと
〈全国平均正答率との差… -1.0〉
- 平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと 〈全国平均正答率との差… -9.7〉
- 表現の仕方に着目して助言し合うこと 〈全国平均正答率との差… -3.6〉

【国語B】〈全国平均正答率との差〉

- グラフを基に分かったことを的確に書くこと 〈全国平均正答率との差… +0.3〉
- 記述式の問題の正答率が上昇 〈(H27)-3.1→(H28)-2.7〉
- 目的や意図に応じて、複数の情報を関連付けて、自分の考えをまとめること
〈全国平均正答率との差… -4.1〉
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること
〈全国平均正答率との差… -5.4〉

【課題に対する今後の取組】

- ・ 漢字の確実な習得のために、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で、既習漢字の使用を徹底する。また、語彙を広げるために、国語辞典・漢字辞典の利用について指導する。
- ・ 目的や場面に応じて、話し手の意図や自分の考えとの共通点や相違点、予想した反応との違いなどを踏まえて聞くことができるように、実際の話の展開の中で、それらの観点について考えるような授業をする。

小学校算数

【算数A】

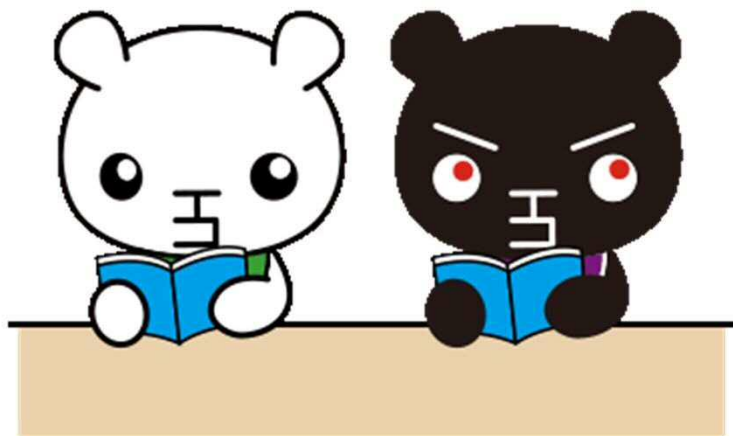
- 小数の除法における計算能力 〈全国平均正答率との差… +2.6〉
- 三角形の底辺と高さの関係を理解する問題 〈全国平均正答率との差… -7.8〉
- 1を超える割合を表す場面において、基準量と比較量の関係を理解する問題
〈全国平均正答率との差… -8.1〉

【算数B】

- 量と測定、図形領域については、全国との差が、昨年度より縮まった。
〈全国比量と測定…H27 (-2) → H28 (-1.6) 図形…H27 (-2.1) → H28 (-1.9)〉
- 必要な情報を判断し、単位量当たりの大きさを求めること
〈全国平均正答率との差… -6.0〉
- 複数の表から読み取ることができる事柄とできない事柄を判断すること
〈全国平均正答率との差… -5.4〉

【課題に対する今後の取組】

- ・ 全体と部分の大きさの関係や底辺と高さの関係を理解することができるように、視覚的に表す活動の在り方について指導・助言する。また、習熟のための時間を設定する授業を行う。
- ・ 表やグラフ、式の意味などの理解をより深めるために、言葉や図を用いた説明で終わるのではなく、もう一度問題場面に戻って説明内容を振り返り考察するといった活動を取り入れる授業を行う。



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん, 北九州市